

# 今後の研究テーマ についてのアイディア

渡辺 凜

(平成26年、平成27年に研究を支援していただきました)



# 自己紹介

- 2014年、2015年の支援研究
  - 東京大学で原子力を専攻する大学院生
  - 2014年夏、原子力研究開発機構のインターン生として東海村で一ヶ月暮らしながら研究
- 2017年から日本エネルギー経済研究所で日本やAPEC諸国のエネルギー政策を調査
- 2019年に退職、出産



# 支援していただいた研究の内容

- **どのような高レベル放射性廃棄物の“処分”が望ましいのか？**（渡辺凜、寿楽浩太）
- 政策の議論に市民の意見を取り入れる方法を考える研究
  - 「社会は廃棄物とどう関わるべきか」を市民に聞く
  - 市民の意見を反映するような技術やシナリオを調査
  - 専門知識のない市民の意見も、議論に活かせる
- 2014年 東海村の若い市民にグループインタビュー
- 2015年 市民の意見をもとに処分政策を検討



# 今後の研究のアイディア①

- **東海村にはどんな原子力・科学技術関連の施設があるのか、それらはどんな可能性やリスクを持っているのか？**
  - 何が行われている？これからの運用予定は？
  - 人は増える？設備は？
  - 運用が終わったらどうなる？
  - どんな事故や危険が生じうる？



# 今後の研究のアイディア②

- **東海村にある施設は将来（10年、30年、50年後）どんな運命をたどる可能性があるか、何がその運命の引き金や背景要因となりうるか？**
  - ←日本や世界の原子力／エネルギー業界の流れなどが関係
- **その運命は東海村の人々にどんな影響を与えうるか？**
  - ←東海村の社会経済的な特徴や抱えている問題などが関係
- **それを踏まえて今やっておくべきことはあるか？**
  - ←「将来、東海村はどうなることが望ましいのか」が関係



# 今後の研究のアイディア③

- 原子力発電所や原子力関連施設を廃止するための計画は何を目指すべきか？
- 特に、地元の自治体や住民は廃止の仕方や廃止後の跡地、そこで生じる廃棄物の処分について何を望んでいるか。



# 今後の研究のアイディア④

- 東海村にある施設で異常事態が発生した場合に、住民のタイムリーな意思決定と行動をサポートするため、自治体や関係機関と住民との間のコミュニケーションはどうあるべきか？
  - 過去の教訓を一般化、体系化した理論の構築が必要
  - そのような理論の構築に、自治体や住民はどのように貢献できるか？



# 最後に

- この支援事業は、原子力と関わりの深い自治体が、より良い関わり方を模索するために、自らの財源で研究を支援するもの
- 国際的な学術の場で話すと必ずびっくりされる、世界的にも珍しい取り組み
- 今回提案した研究も、東海村に資すると同時に、日本や各国にとって重要な示唆が得られるはず
- そして、実現には自治体や住民の協力が必要